

安全センター

[発行]

尼崎労働者安全衛生センター

[連絡先]

〒660-0802

尼崎市長洲中通 1-7-6

TEL・FAX 06-4950-6653



1,890円(当センター割引あり)

クボタシヨック13年の集会、会場は満杯

しかし労働組合からは・・・

六月二三日、クボタシヨックから13年「アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」は、今年も中小企業センターのホールを一杯にしました。

以前の尼崎安全センターなら、尼崎市職労から〇人、競艇労組から〇人、全国一般の各支部から〇人、金属のヤンマー、東亜バルブ、東洋精機から各〇人というように、それだけである程度の数を確保することができました。個々の労働者にとってそれが「動員」と呼ばれるものであっても、集会や行事の内容が良ければ、それへの参加が労働者の社会変革への自覚の一歩となり、自分たちの団結力への自信につながっていききました。

OBプラス現役に来てほしい

この日も新聞報道で約三〇〇人、少なくとも二五〇人を超える参加



2018/06/23

がありました。もちろんアスベストの被害者やその身内・友人・隣人が中心ですが、見慣れた安全センターの職場のOBや会社の人たちも結構来られています。その人たちで会場のパイプ椅子を並べた片づけたりしているのですが、そこに安全センターの現役の労働者を見ることは、阪神医療生協を除いて去年今年とありません。(見



落としていたらごめんなさい)それが本当に悔しく残念なことです。

尼崎の石綿肺がん

労災認定は九九件

尼崎労基署での石綿労災認定はクボタシヨック翌年の二〇〇六年度以降で中皮腫二〇八件、肺がん九九件(四二件が業務外。肺がんは石綿とは関係ないと思っている医師がまだ尼崎でもいる)。全国では同じ二〇一六年度までに一三七七八件(中皮腫七二〇一件、肺

がん五五七三件等)でした。最近安全センターで関わった認定事例では、住友金属、住友精密工業、木村化工機(申請中)があります。私たちの身内や先輩の中にも頭に浮かぶ被害者がいるはず

クボタ内外で被害者

五五〇人超える

クボタ周辺の被害では、地名で浜とか西川とか潮江とか次屋とか、(次頁へ)

救済金請求339人に

クボタ・シヨック13年 患者ら集会

大手機械メーカー・クボタの旧神崎工場(尼崎市)周辺で、アスベスト(石綿)による健康被害が多発



石綿被害の闘病体験を語る馬島忠久さん(左)ら患者たちニ崎市

していることが発覚した2005年の「クボタ・シヨック」からまもなく13年。患者団体などが23日、市内で集会を開き、クボタに救済金を請求した周辺住民が今月15日時点で339人に達し、うち320人はすでに亡くなった、と明らかにした。支払い決定を受けたのは317人だった。

JR尼崎駅近くにあった旧神崎工場では1954〜95年、石綿を使った水道管や建材が製造されていた。空気中に飛散した石綿を吸い込むことで引き起こされる中皮腫や肺がんなどの病気は、十数年〜数十年の潜伏期間がある。

■プロの技

2018年7月7日 神戸新聞

英国中部の村で、対戦者同士が足の指を組み合い、相手を倒す毎年恒例の「世界足指相撲大会」が開かれた。欧州メディアが報じた。競技は1970年代に村の酒場で始まった。床に座って、対戦相手と組んだ指を互いに押さえ込み合う。勝敗は右足2回、左足1回の結果で決める。各試合の前には、足専門の医師にけがや菌の状態を入念に調べてもらうという。(共同)

振り絞るように話した。尼崎労働者安全衛生センター(06・4950・6653)は石綿被害に関する相談を受け付けている。(宮武勢)

“認知症予防にぜひ!”



(前頁より)

またJRの線路の南側では常光寺、杭瀬、長洲東通、同中通、同本通、同西通、金楽寺などに拡がって、被害は阪神尼崎や大物のあたりまで伸びています。

これまでにクボタに提出した周辺住民の被害者は**三三九人**(この後つい最近一人増えました)、クボタの旧神崎工場で労災認定されている労働者が一八五人(中皮腫七六人、肺がん五九人など)。

このほかにクボタの中で働いていた下請労働者、アスベストの運搬や機械の据え付け修理などで工場へ出入りしていた日通等の企業の労働者、クボタの石綿を直近で吸いながら働いていたヤンマーや神崎製紙(現王子製紙)等の被害者を加えると被害は五五〇人をはるかに超えています。



これを私たちが声を大にして言わなければ、国・加害企業・世間は氣にとめることもなく通過していくのです。まだ、多くの人たちに忘れてもらいうわけには絶対にかまいません。

写真展もやりました

それで今年は二三日の集会前三日間、尼崎市役所で写真展(今井明撮影)を開き、安全センターOBと患者と家族の会で当番を決めて説明にあたり、また相談を受けました。これからも必要な試みだと思えます。

安全センターに参加している職場のなかまの皆さん、来年はぜひ各職場から一人でも二人でもクボタシヨック14年の集会に参加してくださいね！

(H)

未曾有のアスベスト被害をもたらした小田地区に、アスベスト製品や被害の歴史・写真・出版物の展示施設や慰霊碑がぜひ必要と私たちは考えている。アスベスト公害を風化させてはならない。

旧神崎工場周辺の被害を最初に公表した故・前田恵子さんから3人の住民や、石綿健康被害救済法の制定を路上で訴える患者家族らを紹介。公共施設や大型駐車場などに使われた石綿含有

尼崎市のクボタ旧神崎工場内外のアスベスト(石綿)被害が明らかになった「クボタシヨック」から20日で13年になるのを前に、被害の実態と被害者の闘いを振り返る写真展が20日、尼崎市役所1階ロビーで始まった。患者や家族らの無念や、今後も飛散が懸念される石綿の恐ろしさを伝えている

写真展。22日まで。

被害者支援団体「中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会尼崎支部」などが主催。石綿問題に取り組んできた写真家今井明さん(65)が、2000、18年に撮影した患者や家族らの写真約80枚を展示している。

尼崎市役所 患者らの写真80枚展示



石綿の怖さ知って

二〇一八年六月二日 神戸新聞



尼崎市昭和通2の市中小企業センターで開かれる。同市のクボタ旧神崎工場内外で明らかになった石綿被害の実態などを、患者や支援団体、治療にあたった医師らが話す。

石綿が引き起こすとされるがん・中皮腫など関連疾患の患者らを支援する「尼崎労働者安全衛生センター」などが毎年開いている。

建材の写真もあり、解体工事に伴って石綿が飛散し、被害が拡大する危険性なども伝えている。

同支部事務局の飯田浩さん(71)は「写真に写っている患者さんの多くが亡くな

23日、尼崎で集会

被害の実態を 医師らが語る

アスベスト(石綿)被害の救済と根絶をめざす尼崎集会が23日午後1時から、

集会では、患者や遺族が病気の実情を話す。また、大阪国際がんセンター副院長の東山聖彦さんが「私の出会った胸膜中皮腫患者さん」と題して講演し、兵庫医科大学病院(西宮市)で患者を支えるソーシャルワーカーの報告などもある。

集会前の午前10時〜正午、同センター会議室でアスベスト相談会も開かれる。相談会、集会ともに参加無料。

尼崎労働者安全衛生センター
06・4950・6653
(岡西篤志)